

鳥取の手仕事

[第5回]

伝統の技と新たな挑戦

因州和紙

いん しゅう わ し

平安時代が起源とされる因州和紙は、鳥取市内の佐治町と青谷町で、今なお地場産業として継承されています。古くは、朝廷への献上品として、現在は、書道用紙から壁紙などの建材、照明などのインテリアなどいろいろな商品に和紙が活用されています。古くて新しい和紙の世界を紹介します。

因州和紙シェードの照明、「オーロラ」(あおや和紙工房)

千百年の歴史

因州和紙がいつから作られているのか、定かではありませんが、正倉院文書の中には、因幡の国(鳥取県東部)で奈良時代に作られたと推測される紙が保存されています。また、平安時代の「延喜式」(905~927年編さん)に因幡の国から朝廷に紙が献上されたという記録もあります。江戸時代初期には、原材料である楮、雁皮が「切つてはならない木」として手厚い庇護を受け、藩の御用紙から庶民の使う紙まで盛んに生産され、紙座で取り引きされていました。明治時代には、近代的な紙の漂白技術の導入や紙の原材料である三桮の殖産を県が奨励。また他県から導入した合理的な生産方法により生産量が飛躍的に増えました。その勢いは大正末期まで続きます。しかし昭和に入り、因州和紙は庶民が使用する紙の地位を洋紙に明け渡していきます。戦後は、コピー機などの事務機器の台頭や生活様式の激変で、それまでの主力製品の事務用簿葉紙や障子紙などが壊滅的な打撃を被りました。

書道用紙からインテリアまで

そんな逆境の中、画仙用紙などの書道用紙、工芸紙、染色紙を開発。現在は手漉き高級画仙用紙が国内有数の生産量を誇り、その品質の高さから、全国の多くの和紙愛好家や書道家に愛用されています。

また、昭和50年には、伝統的工芸品産業(和紙部門)として全国で最初の産地指定を受けました。国の認定する伝統工芸士も12人を数えます。

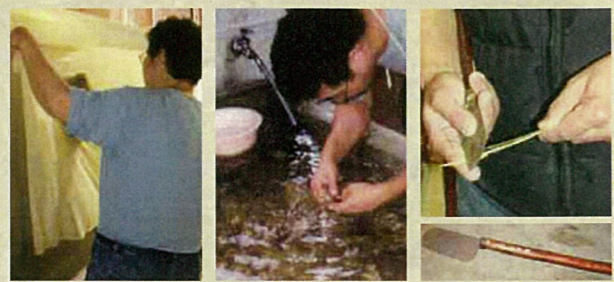
最近はその伝統技術を生かした、立体形状の紙や機能性、和紙等の新製品開発に力を注ぎ、ランプシェードやインテリア製品なども製作されています。



書き初め大会(因州和紙フェア)

海外でも高い評価

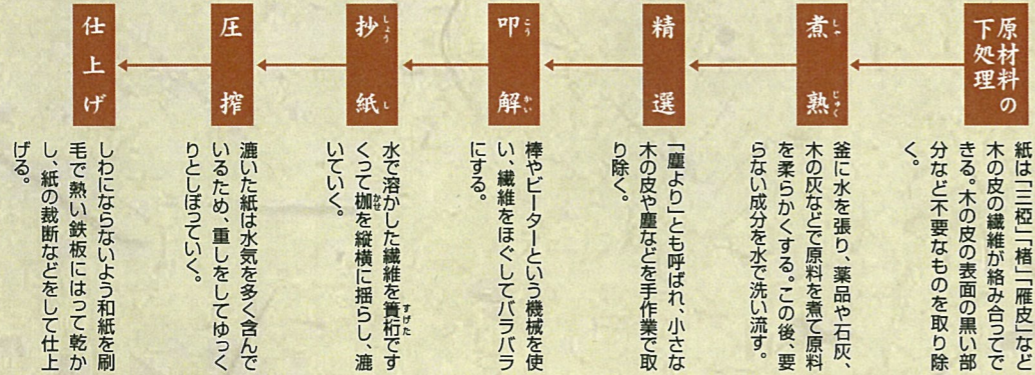
因州和紙は、国内の版画家はもとより、スペインやイギリスの作家たちにも版画用紙として愛用されています。



【仕上げ】乾燥板に和紙を刷毛で貼りつける。
【精選】「塵より」根気よくゴミを取り除く。
【原材料の下処理】「かごなで」表皮を取る作業と道具の「包丁」

和紙ができるまで

和紙を漉く職人さんの実演を見るとあっという間に和紙が出来上がりますが、材料の準備などには膨大な時間と手間が掛かります。原料の植物繊維に付いている表皮などを取り除く作業「塵より」は、特に根気が必要。和紙の仕上がりに影響するので、人の手でひとつひとつ丁寧に取り除きます。



上/美術学校(スペイン)の教授や生徒の皆さんが、因州和紙を使った版画作品に興味津々。下/因州和紙を使った版画作品展(スペイン)

特にスペイン、バルセロナ市にある州立リョッチャ美術学校やバルセロナ大学など5校では、因州和紙を版画作品だけでなく、本の装丁、オブジェなど幅広く美術作品に使っています。版画家でもあるコメーリヤス校長は、「今まで、厚くて強度がある紙を使っていました。因州和紙は透けて見えるほど薄いのに大きな圧力をかけて印刷できる上に、素材感が出ていて、本当に素晴らしい」と絶賛しています。スペインとの交流は、約10年前から行われており、昨年は東京で記念展示会が開催されました。今年10月には、スペインでも開催される予定です。伝統を生かしつつ、より広い世界へ羽ばたく因州和紙。今後どのように活用されていくのか楽しみです。

伝統の技を継承して

長谷川憲人製紙 長谷川 豊さん
2009年8月に帰郷し、両親長谷川憲人さん(伝統手漉き)と良子さんに師事。24歳。



代々手漉き和紙の製造を家業としてきた家の四代目長谷川豊さんが働く工房を訪ねました。長谷川さんがここで働き始めたのは昨年の8月。小学生の時から兄と一緒に家業を手伝っていました。サナたたき※などしましたよ」とこやかに語る豊さん。一枚漉いたら、また一枚と淀みなく作業を進めます。帰郷して1年とは思えない見事な手さばきには、家業四代の歴史が確かに受け継がれています。



トロアオイの根

※「サナたたき」粘材となる「トロアオイ」の根を木槌でたたき、粘液を出しやすくする作業。



長谷川豊さん作の和紙(上)と染紙(下)

素人の目には、見事に漉けているように見えても、「まだまだ紙の厚さを均一に揃えることができません」と長谷川さん。品質や精度向上を目指し、技の研鑽に励む姿に、職人の誇りを感じます。手作業で漉をたよりに数枚同じ厚さに揃えることは、本当に大変なことです。辛い作業はありますかとたずねると、「塵より」。楽しいことは、「仕事が終わった時」。現代的な青年は、頼もしい後継者です。

詳しくは…

- とりネット
「ととりの手仕事」(手仕事全般)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto>
- 「ととりの工芸品」(伝統的工芸品)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598>
- パンフレット「鳥取の手仕事」
(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先 県庁観光政策課
電話 0857-26-7237